

東北地方 1か月予報

(5月15日から6月14日までの天候見通し)

平成16年5月14日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響を受ける時期があるでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並か高い、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並でしょう。

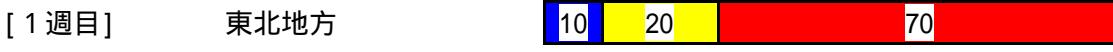
週別の気温は、1週目は高い、2週目は平年並か高い、3～4週目は平年並か低いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 5月15日(土)～6月14日(月)

1週目 : 5月15日(土)～5月21日(金)

2週目 : 5月22日(土)～5月28日(金)

3～4週目 : 5月29日(土)～6月11日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は5月21日

3か月予報：5月25日(火) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	15.5	152.1	189.6	14.0	14.8	16.2
新庄	16.5	95.8	183.6	14.5	15.6	17.5
若松	17.7	74.3	196.2	15.7	16.8	18.7
深浦	15.0	100.6	201.8	13.2	14.2	15.9
青森	15.0	77.3	207.8	13.4	14.3	15.8
むつ	13.9	95.8	199.0	12.4	13.3	14.6
八戸	14.6	89.3	201.6	13.3	14.0	15.2
秋田	16.4	109.9	200.5	14.4	15.4	17.5
盛岡	16.0	98.6	187.8	14.1	15.1	17.0
宮古	14.5	99.1	179.7	13.3	14.0	15.1
酒田	17.1	99.9	205.2	15.1	16.1	18.1
山形	17.6	76.4	197.3	15.7	16.7	18.6
仙台	16.7	104.1	182.0	15.1	16.0	17.4
石巻	15.8	90.0	193.7	14.2	15.1	16.6
福島	18.4	82.3	182.3	16.8	17.7	19.2
白河	16.7	124.7	173.4	15.0	16.0	17.6
小名浜	16.7	126.8	187.3	15.3	16.0	17.3

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.3	84~110	95~109
東北日本海側	-0.4~+0.4	81~114	96~108
東北太平洋側	-0.4~+0.3	83~109	94~109

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.4~+0.6	-0.6~+0.6	-0.5~+0.5
東北日本海側	-0.5~+0.6	-0.7~+0.7	-0.5~+0.3
東北太平洋側	-0.4~+0.7	-0.6~+0.7	-0.5~+0.5

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を受けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年5月14日 仙台管区気象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(5月15日~6月14日) :

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響を受ける時期があるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(5月15日~5月21日) :

明後日(16日)から17日は気圧の谷の影響で曇りや雨となるでしょう。その後は、東北北部では晴れる日もありますが、東北南部では前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目(5月22日~5月28日) :

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響を一時受けるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3~4週目(5月29日~6月11日) :

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響を受ける時期があるでしょう。

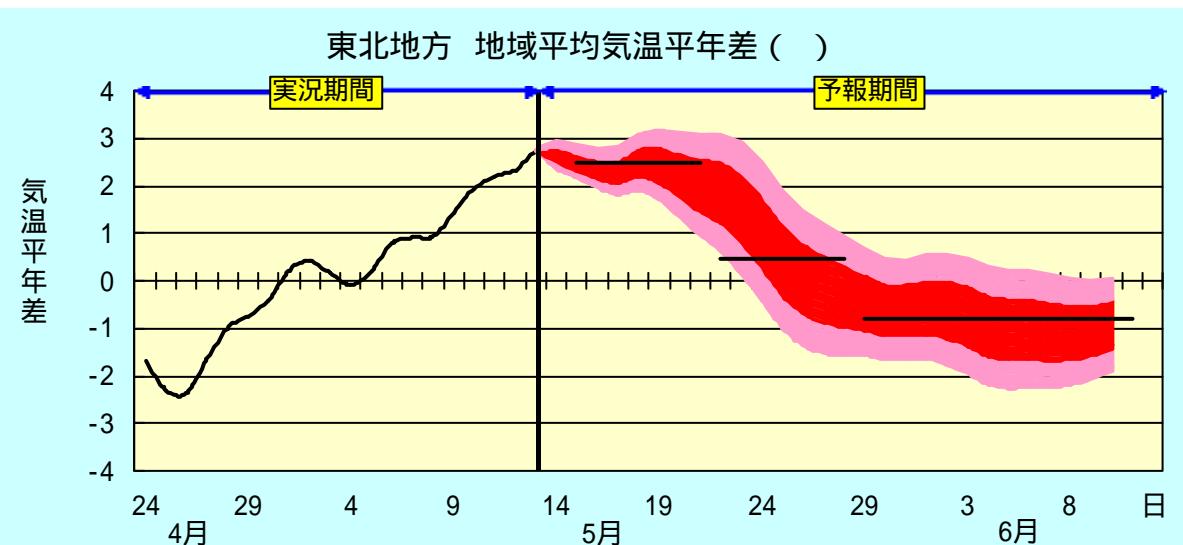
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	15.7日	3.7日	4.2日	7.8日
東北太平洋側	15.0日	3.8日	4.2日	7.0日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「高い」、2週目は「平年並」、3~4週目は「低い」と予測している。予報は、その他の資料から2週目を「平年並か高い」、3~4週目を「平年並か低い」に変更する。なお、数値予報の信頼度は小さい。

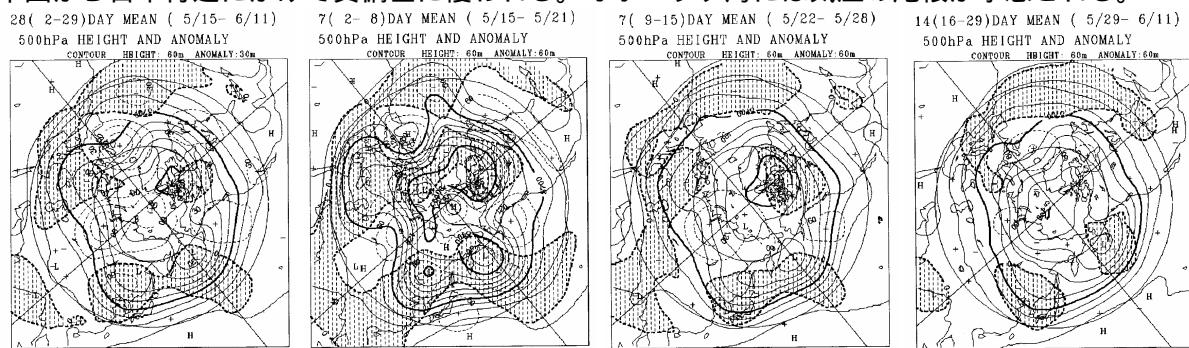


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極域は正偏差に覆われる。極東域では、アリューシャン近海と中国東北区が気圧の谷となって負偏差が広がるが、日本付近は南東海上に中心をもつ正偏差に覆われる。日本の西が気圧の谷（西谷）となるため低気圧や前線の影響を受け易く、また、オホーツク海には地上のオホーツク海高気圧に対応する気圧の尾根が予想される。

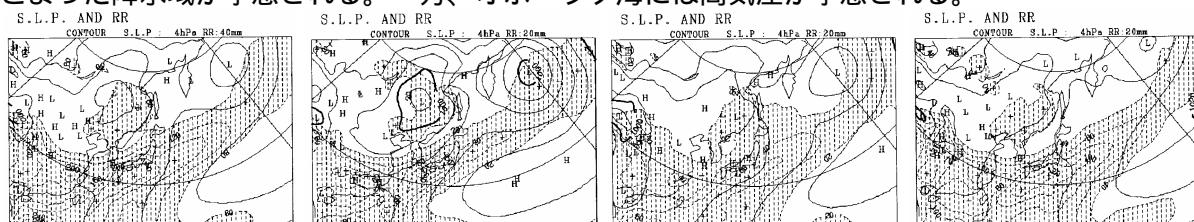
週別に見ると、1週目は日本付近が正偏差に覆われる。2週目は、日本の南東海上を中心とする正偏差が弱まる。一方、気圧の谷が1週目より日本付近に近づき負偏差に覆われる。3~4週目は、中国から日本付近にかけて負偏差に覆われる。オホーツク海には気圧の尾根が予想される。



地上気圧と降水量：

月平均では、日本の南に高気圧が張り出しが、日本の南岸に低圧部が予想される。ただし、日本付近の等圧線の間隔は広く、天気は数日の周期で変化する。まとまった降水域が、日本の南岸を中心に予想される。

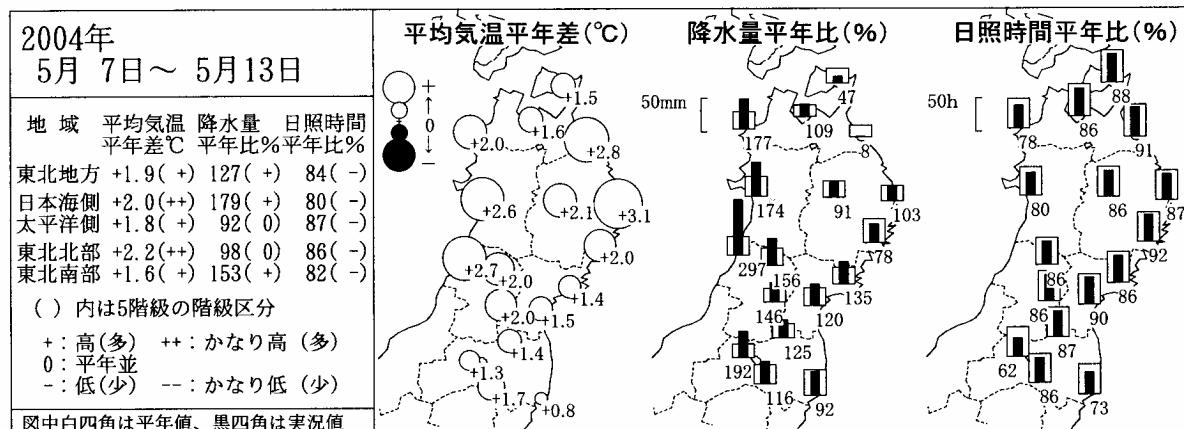
週別に見ると、1週目は日本の南で高気圧が平年より強い。2週目は、1週目に比べ、日本の南の高気圧が弱まり、日本の南岸の降水域も弱まる。3~4週目は、日本の南岸が低圧部となり、まとまった降水域が予想される。一方、オホーツク海には高気圧が予想される。



4. 最近1週間（5月7日～5月13日）の天候の経過

期間のはじめと12日に高気圧に覆われ概ね晴れた他は、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くかった。

平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）